

No. 1193

下町のこころ —東京・浅草—

214
元年

歴史と伝統に支えられた浅草のれん会、その15周年を記念して大感謝祭が、11月14日、台東区都立産業会館で開かれました。目玉の飛び出るほど安い目玉市にはサラダ油、みそ、しょう油砂糖と、何でも値上りのこのご時勢に原価を割っての大サービス。とっくに無くなってしまったもの、それがこの町には残っています。それもこれも売り上げの全てが交通遺児に贈られるとあっては浅草っ子の心意気を感じないわけにはいきません。

高ゲタをあやつり 外八文字のステップを踏んでの花魁道中。人と人との深いきずなの中で生まれ育ってきた町人文化、その中でときすまされ、はぐくまれてきた日本の美、江戸、浅草には、それが今も生きづいています。

巨人、阪神OB戦

251
秋

背番号16、川上、豪腕別所、いかり肩藤村、牛若丸吉田、数々の名選手を育てた巨人×阪神のOB第一戦が11月21日、超満員の観衆を集めた後楽園球場で行なわれました。この日のために特別注文した“物干しザオ”を手にバッター・ボックスに向う藤村、しかし、年には勝てずノーヒット。巨人は現役時代、ライト打ちで鳴らした千葉がレフトの方向へ打つからと予告。しかし予想通りライト方向へ、当たりそこねの一塁ゴロ、スタンドを笑わせます。3番サード長島は若さにものを言わせたレフト前のヒット。続くは“赤バット”4番川上。打撃の神様川上はライト線ヘツーベースヒット。

巨人が別所から金田へと豪華な投手リレーを見せれば、阪神は悲劇の大投手、村山をマウンドへ送ります。

そして、あの天覧試合の再現。長島、川上を凡打に打ちとった村山の快速球に現役復帰の声援が飛びかいります。サード長島が華麗な守備を見せればショート吉田も好フィルデングで対抗。

試合は9回の裏、満塁サヨナラのチャンスに9番王が、平凡な三塁ゴロ、結局、両軍仲良く4対4の引き分け、ファインプレー、珍プレーが続出し、スタンドは拍手と爆笑の連続でした。